

# 大分大学 環境報告書 2021

Oita University  
Environmental Report 2021

ダイジェスト版

ITA

NIV.

## 学長からのメッセージ

### 環境報告書2021の刊行にあたって

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、昨年に引き続き、日本を含め全世界で猛威を振るっており、日常生活を取り戻すにはまだ多くの時間が必要です。本学においては、感染防止対策としてオンライン授業の実施や各種活動の制限等を行い、さらに大学内においてワクチンの職域接種を実施しています。

さて、近年、異常気象による自然災害が多発しており、線状降水帯の発生による豪雨等で甚大なる被害が各地で発生しました。こうした多発する自然災害に対して、本学では、減災・復興デザイン教育研究センター(CERD:サード)において、安全・安心な社会構築のための取り組みを推進しています。

地球温暖化問題について我が国は、2021年4月の気候変動サミットにおいて、2030年に向けた温室効果ガスの削減目標について、2013年度に比べて46%削減することを目指すとして、世界の脱炭素化に向けて国際協力の必要性を訴えました。

本学では、「地球環境問題が21世紀における人類の重要課題の一つである

との認識に立ち、教育、研究、診療に伴うあらゆる活動において、環境負荷の低減に努め、『環境に貢献する大学』として、基本方針に沿った活動を継続的に行う。」を環境基本理念とし、環境方針に基づいた環境負荷削減目標を定め、エネルギー消費削減に向けた取り組みを積極的に進めています。SDGs、ポストSDGs、カーボンニュートラル社会を見据え、キャンパス全体の更なるエネルギー効率化や環境にやさしいキャンパスの実現に取り組んでまいります。

本報告書は、本学が2020年度に実施した様々な環境配慮の取組を教育や研究、省エネルギーに取り組んできた実績と併せて、環境に関する様々な取り組みをまとめたものです。

今後も本学では、大学全体として環境に関する取り組みを継続的に実施していきたいと考えておりますので、多くの方々のご意見をいただければ幸いです。



国立大学法人大分大学 北野 正剛

## 環境方針

### 基本理念

大分大学は、地球環境問題が21世紀における人類の重要課題の一つであるとの認識に立ち、教育、研究、診療に伴うあらゆる活動において、環境負荷の低減に努め、「環境に貢献する大学」として、基本方針に沿った活動を継続的に行う。

### 基本理念

#### 環境管理体制の構築

- 理事(総務・財務・広報担当)を総括責任者とする環境マネジメント対策推進会議及び省エネルギー推進委員会の充実・強化
- 省エネルギー推進委員会と各キャンパスワーキンググループとの連携、調整による環境管理体制の充実・強化

#### 環境負荷の少ないキャンパスの構築

- 温室効果ガス排出の削減
- 省エネルギー、省資源の推進
- グリーン購入の推進を継続
- 廃棄物の削減と排水の適正な管理
- 化学物質の安全管理の徹底
- 環境負荷を低減させるための設備投資

#### 環境研究の推進と環境教育の実践

- 本学の重要研究推進分野である「環境科学領域」等の環境に配慮した研究の推進
- 大学や附属学校での環境教育の実施

#### 地域社会への協力・支援

- 地域の環境行政に対して専門的な立場からの協力・支援
- 市民や企業の環境意識の向上及び取組への支援

## 環境マネジメント体制

本学の環境マネジメント体制は次のとおりで、相互に情報を共有することで、環境整備の推進及び環境負荷の削減を進めています。

### 1. 環境管理体制

2012年度より、学長と各担当理事で構成される環境マネジメント対策推進会議で環境報告書を作成する体制をとりました。このことにより、各担当理事の責任の下、より充実した環境報告書を作成することを目指します。

### 2. 省エネルギー管理体制

理事(総務・財務・広報担当)をエネルギー管理統括者に置き、部局ごとにエネルギー管理責任者・推進者・推進員を配置しています。

各キャンパスで、エネルギー管理責任者・推進者を中心とするワーキンググループを開催し、エネルギー分析と省エネ対策を検討の上、省エネルギー推進委員会で全学の省エネルギー対策や指導を行い、環境マネジメント対策推進会議へ報告することにより、大学全体の省エネルギー管理を進めています。

### 環境マネジメント対策推進会議 (役員会がこの会議を兼ねる)

学 長  
総括理事・理事(企画・戦略、医療・病院担当)  
◎ 理事(総務・財務・広報担当)      理事(教育、入試、学生支援担当)  
理事(研究、社会連携、産業連携、地域医療、人材育成・福祉担当)  
理事(法務、コンプライアンス、地域連携担当)      ◎は総括責任者



### 省エネルギー推進委員会

エネルギー管理統括者(理事)  
エネルギー管理企画推進者(全学の省エネルギー対策の検討・指導)



### 各キャンパス

ワーキンググループ(エネルギー分析と省エネ対策の検討)  
エネルギー管理責任者      エネルギー管理推進者

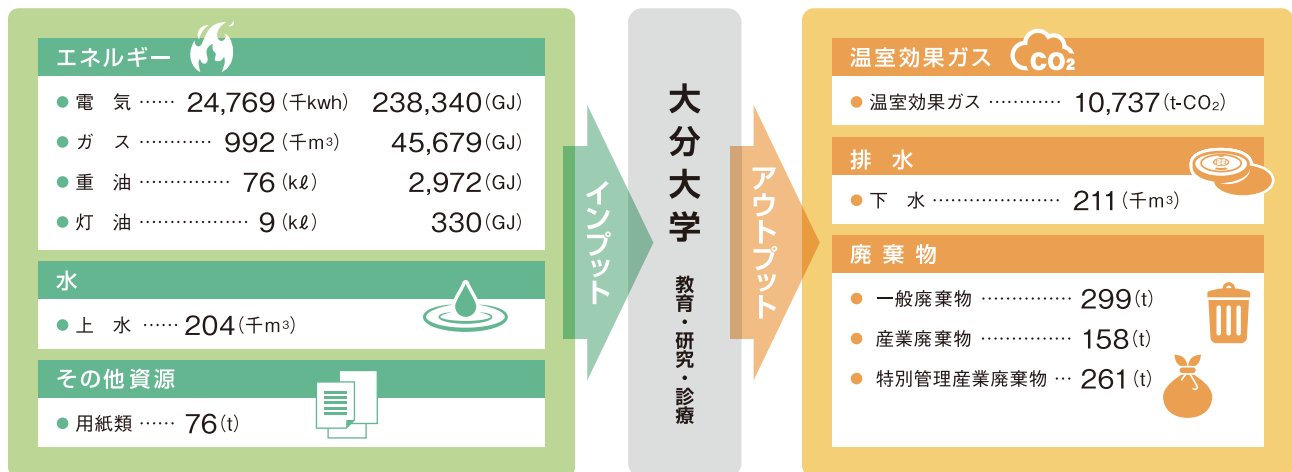


エネルギー管理推進員(省エネ活動の啓発・推進)



各部局・職員・学生・生協等

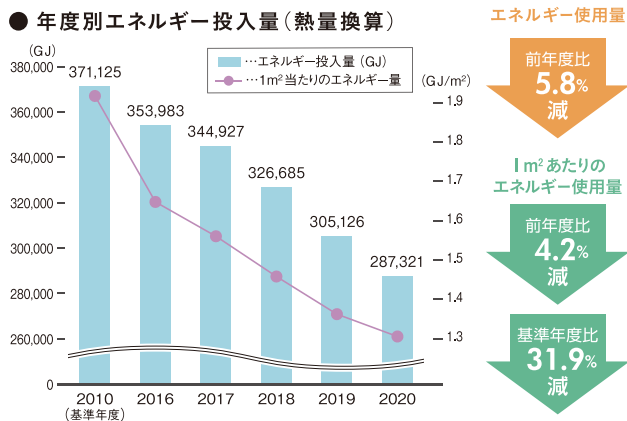
## マテリアルバランス



## 環境負荷削減の状況

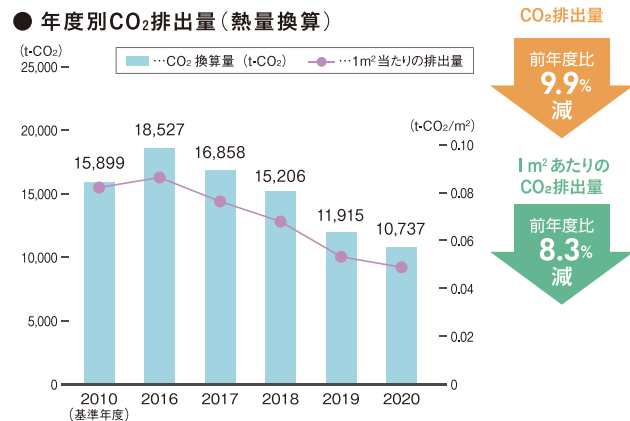
### エネルギー投入量

前年度に対して5.8%減少しました。  
また、エネルギー使用量を建物延床面積で除した単位面積当たりのエネルギー使用量は、前年度と比較して4.2%減少しました。



### CO<sub>2</sub>排出量

前年度排出量に対して9.9%減少しました。  
また、CO<sub>2</sub>排出量を建物延床面積で除した単位面積当たりのCO<sub>2</sub>排出量は、前年度と比較して8.3%減少しました。



## 省エネルギーへの取組

### 医学部・医学系研究科・附属病院

医学部・医学系研究科・附属病院では、昨年に引き続き「1人でもできる省エネ」を学内ホームページで周知し、省エネに取り組んでいます。

また、2020年度は冷夏・暖冬の傾向があったため電気の使用量が減少し、さらに以下のとおり電気・ガスの使用量を抑制することができました。

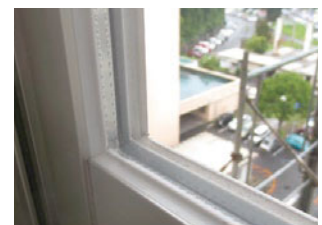
### 医学部

次の取組により電気の使用量抑制に効果がありました。  
また、2019年度から開始した基礎・臨床研究棟西側の改修工事に伴い、窓ガラスは省エネ効果が高いペアガラスを採用し、また高効率化の機器(空調機・LED照明)を採用し改修を進めています。

### 附属病院

省エネルギー支援業務(株式会社テクノ工営)による次の省エネ運転実施内容により電気・ガス共使用量抑制に効果がありました。

- エレベーター利用時の2アップ、3ダウンの促進
- 冷暖房の温度設定の徹底を図る
- 昼休みの消灯など、不必要な照明や空調の停止の促進
- クールビズ(夏季)の取組を積極的に行う



ペアガラス

- 蒸気バルブ類の保温
- 貫流ボイラ運転台数の最適化
- 給湯システムの最適化
- 空調機、排風機運用の最適化(外来診療棟・東病棟・西病棟・新病棟)
- 外調機給気温度の変更
- 熱源温水送水温度の見直し
- 温熱源台数制御設定の見直し



貫流ボイラ運転台数の最適化

## 児童生徒に対する環境教育

### 教育学部附属特別支援学校における『作業学習』での取組

#### 中学部 特別の教科道徳「奉仕作業」及び作業学習「土づくり作業」

中学部では、特別の教科道徳の授業で校外内の奉仕作業に取り組んでいます。近隣の公園や道路のゴミ拾いや、校内の落ち葉や木の枝などを拾っています。また、土づくりの作業学習では、古土や腐葉土をふるいにかけて、土を作り校内の畑や花壇で再利用する活動に取り組んでいます。



#### 高等部 特別の教科道徳「地域の清掃」及び作業学習「リサイクル」

高等部では、特別の教科道徳の授業で学校近隣の道路や公園等の清掃に取り組んでいます。拾ったごみは可燃物、空き缶、ペットボトル等に分類しています。また、作業学習(リサイクル)では、家庭から回収した空き缶やペットボトルを、分類、洗浄、圧縮してリサイクルしています。リサイクルした空き缶は、廃棄物収集業者に搬入しています。



## 環境教育の実施状況

### 教養教育科目における取組

教養教育科目の中に「福祉・地域」の主題を設定し、この主題等で環境教育に関連した以下の科目において地域環境や地域づくりについて理解を深める講義を展開しています。

特徴的な科目としては、大分大学に事務局を置くNPO法人「大分水フォーラム」の取り組みを生かした「大分水Ⅰ」「大分水Ⅱ」があります。大分県内の水辺を題材として、その自然環境や実際にそこで生活する人々の生業について、教室での講義と地域体験実習を組み合わせ、実態的に理解を深める授業を展開しています。「大分水Ⅰ」では100年後に朱鷺が飛来することを目指して、地域の生物多様性を保ちつつ稲作を行っている竹田市岡本地区での田植えや害獣対策の電柵設置を、「大分水Ⅱ」では同地区での稲刈りや「アジア太平洋水サミット記念県民フォーラム」への参加等を行っています。地域体験実習では地域の指導者との交流に加えて学生相互の学びあいも展開し、学生の社会性を向上させると共に地域課題を肌で感じる機会を持ち、専門科目での学習へとつなげる工夫を行っています。2019年度までは、上記の学外での体験活動を行っていましたが、2020年度は、コロナ禍の状況により、学外での体験活動を行う事ができませんでしたので、講義中に大分県内外の河川や温泉に関するオンライングループワークを行い、地域の水辺環境に対する理解を深める活動を行いました。また、地域の水辺から大分県、さらにアジア・太平洋地域にまで視野を広げ、地球規模での共生社会について実態的に理解を深めるとともに、循環型社会やSDGs(持続可能な開発目標)等についても考え、行動化することを目指しています。



本冊の環境報告書は、大分大学ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

ホーム > 情報公開・個人情報保護 > 法人情報提供 > 環境報告書

<https://www.oita-u.ac.jp/13joho/johokokai/hojnjoho-kankyo.html>

報告書対象組織 : ● 旦野原キャンパス(教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部等)  
● 挾間キャンパス(医学部、附属病院等)  
● 王子キャンパス(附属学校園)、別府職員会館、国際交流会館、  
大学全キャンパス等を補足(職員宿舎等を除く)

報告対象期間 : 2020年4月～2021年3月

発行日 : 2021年9月

連絡先 : 国立大学法人大分大学(財務部施設管理課)

<https://www.oita-u.ac.jp>

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

TEL 097-586-5330 / FAX 097-586-5319 / E-mail kikai@oita-u.ac.jp